

横浜市立大学附属病院での情報管理の不徹底による個人情報の漏えいについて

横浜市立大学附属病院（金沢区福浦3-9）において、看護師（30歳代、女性）が、患者情報を含む書類を病院外に持ち出していたことが判明しました。

当該書類は、4月25日（木）に横浜市金沢区内のカフェ店内にて発見された後、当該カフェの金庫にて保管されておりましたが、4月30日（火）に当院に問い合わせの連絡が入ったことで事案が発覚しました。書類はすでに回収をしておりますが、個人情報を漏えいしてしまったため、患者様（27名）に対し、経過の説明と謝罪を行いました。

患者様には多大なるご迷惑とご心配をおかけし、また、市民の皆様の信頼を損ねる事態となり、誠に申し訳ありませんでした。

患者情報の厳重な取扱いについて、厳しく指導徹底等を行い、再発防止に努めてまいります。

1 漏えいした患者情報

27名分の院内のチーム医療活動の際に使用するカンファレンスシート
（患者氏名、患者ID、年齢、かかりつけの診療科、疾患名、病状、等）

2 経過

ア 当該看護師は、日頃から院内のチーム医療活動の際に使用する患者様の個人情報を含む資料をB5サイズのバインダー（以下、バインダーという。）に挟み、鍵付きの個人ロッカーに自身の私物である参考書とともに保管していた。

イ 4月25日（木）0時頃

当該看護師は深夜勤務に入る際、バインダーが個人ロッカーにあることを確認した。

ウ 同 9時頃

深夜勤務を終えた当該看護師が退勤する際、鍵付きの個人ロッカーから参考書を複数冊持ち出し、自身のバッグに入れた。その際、同じロッカーに入れていたバインダーも、当該看護師のバッグに収納され、一緒に持ち出した。

エ 同 10時～11時頃

当該看護師が帰宅途中で横浜市内の駅ビルへ立ち寄った際、駅ビルに入っているカフェの周辺にてバインダーを紛失。

オ 同 19時頃

当該カフェの店員がバインダーを店内で発見。内容を確認し、拾得物として店舗内の金庫に保管。

カ 4月30日（火）17時頃

持ち主が現れなかったため、カフェ店員から「バインダーを落とした職員がいるのではないか」と当院に電話連絡が入り、総務課職員がバインダーを回収。

キ 同 17時30分頃

バインダーに綴じられた個人情報やバインダー本体に記載された氏名から、当該看護師の所有物であることが判明。

ク 5月1日（水）～5月2日（木）

対象となる患者様全員に対し、経緯の説明と謝罪を実施。

ケ 5月2日（木）

国の個人情報保護委員会へ報告（速報）。

3 原因

個人情報を一時保管する際には、病棟業務で使用する個人情報の保管場所は指定されていましたが、チーム医療活動における個人情報の保管場所の取り決めがなされていませんでした。

そのため、当該看護師は個人の鍵付きロッカー内に個人情報を保管していました。

4 再発防止策

今後の取組として、各部署において取り扱う個人情報に応じたルールを再確認するとともに、チーム活動においても、個人情報を一時保管するための鍵付きの書庫を新たに設置し、その場所への保管を徹底します。また、今回発生した事例を院内の全職員に周知し、患者情報の嚴重な取扱いについて、厳しく指導徹底等を行い、再発防止に努めてまいります。

5 横浜市立大学附属病院 遠藤 格（えんどう いたる）病院長のコメント

このたびは、当院の患者様の情報について適切な管理を行わなかった結果、多くの患者様とご家族に対し、多大なるご迷惑とご心配をおかけしてしまいました。大変重大なことと認識しており、病院全体の問題として、指導力不足の責任を重く感じております。

対象の患者様とご家族に対し、深くお詫び申し上げます。併せて、市民の皆様からの信頼を損ねる結果となり、誠に申し訳ございませんでした。

深く反省し、再発防止に向けて、病院一丸となって取り組んでまいります。